



## 『 心房細動と脳梗塞 』

---

心房細動は、心房が痙攣するように震えて、規則正しいリズムで心臓が拍動できなくなる不整脈です。そのため、心房内の血流がよどみ、心房内に血液の塊（血栓）ができやすくなります。この血栓が心臓から飛んで脳の血管をつまらせると、脳梗塞を引き起こします。心臓で作られた血栓は大きく、脳の太い血管をつまらせるので、時には死に至り、一命をとりとめても寝たきりになるなど重度の障害が残ります。

心房細動の患者さんの中でも、65歳以上の方や、高血圧、糖尿病、心不全、脳梗塞になったことがある方は脳梗塞になりやすいため、脳梗塞予防のため血栓ができないように薬（抗凝固薬）を服用する必要があります。

心房細動の症状は、「ドキドキする」、「脈が飛ぶ」、「胸の苦しさ」などですが、約半数の人は全く症状がありません。

心房細動を見つけるために、1日1回自分で脈を診てみることや、家庭で血圧を測り、脈の乱れがないか調べることをおすすめします。脈の乱れがあれば、放置せずに循環器科を受診しましょう。



鹿児島厚生連病院  
循環器科部長  
恒 成 博